

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4290201492		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム天神		
所在地	長崎県佐世保市天神1丁目2番13号		
自己評価作成日	令和 6年 12月 9日	評価結果市町村受理日	令和 7年 3月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 7年 2月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保市天神町にある見晴らしの良い高台から景色を楽しみながら入居者様には生活して頂いていると思います。地域との繋がりを大事にしたいと考えており、地域の行事などには準備から施設が入り地域との関係づくりを行っている。入居してから入居者様の地域との繋がりを絶やさぬよう施設内外関係なく安心して楽しく過ごして頂ける様、職員一丸となって支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、西九州道路を眼下に佐世保市内を一望できる天神山の一角に位置し、入居者は毎日素晴らしい眺望を楽しみながら生活を送られている。開設から5年余りと歴史は浅いものの、長年介護業務に携わり国家資格を取得した経験豊富な職員が多数在籍しており、入居者とその家族に安心を提供できる環境である。ICT化を進め法人内にサーバーを設置することで、各事業所の業務効率化を図っている。インカムの使用による迅速な情報共有、介護記録のデジタル化による職員の負担軽減などに取り組まれている。ICT機器の導入にあたっては、知識のある職員が他の職員に丁寧な指導を行い、スムーズな導入を促進した。業務上の管理にはタブレットを使用し、その場で必要な内容を記録できるため、職員のワークライフバランスの実現にも貢献している。今後は、地域交流にも力を入れていく計画を立てており、入居者とその家族に安心と快適な生活を提供できるよう日々努力を重ね、ICT化や地域交流など、様々な取り組みを通じて、更なるサービスの向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念が「笑顔・共感・団結」となっており、いつでも職員が確認できるように各フロアに設置しています。	基本理念が「笑顔・共感・団結」をフロア内に掲示している。職員も意識する様なあ声掛けを行っている。	年初めに各ユニットで、「笑顔・共感・団結」の各言葉の意味について、具体的な事例を交えながら話し合いを行っている。職員一人ひとりが、自身の理念理解度や日々の業務における実践状況について自己評価を通して理念に対する意識を再確認し、日々の業務へのモチベーション向上を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間のスケジュールを調整しながら地域の行事に参加し交流を行っています。また、定期的に町内の児童施設より訪問ボランティアにきて頂いており施設周辺の清掃を通じて交流を行っています。	可能な限り地区行事に参加している。毎年度最初の地区の総会に参加し1年間の行事スケジュールを伺いそれに基づき可能な限り職員の派遣ができるように勤務の調整を行っている。	コロナ禍の影響により、地域との交流機会が減少している現状がある。町内公民館にて、認知症キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民に対し、認知症に関する正しい知識や理解を深める機会を提供している。年に3回、近隣の児童養護施設の子どもたちが訪れたり、職員が地域清掃活動に参加するなど、地域社会の一員としての自覚を育んでいる。	当ホームは開設から5年を迎えたが、その期間はコロナ禍と重なり、地域との繋がりを深めることが困難な状況が続いている。しかしながら、地域密着型施設として、地域社会との交流を深めることは重要な課題であり、今後、感染症等の状況を踏まえながら地域貢献活動に積極的に取り組み、地域住民にとって心の拠り所となるような存在を目指していくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域から認知症に関する問い合わせや、協力要請があった際には、積極的に応じるよう考えております	出来る限り地域への理解啓発の為に利用者と一緒に行事に参加するようにしている。また認知症サポーター要請講座等の依頼があった際には可能な限りで参加をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回対面で実施を行っている。見やすく、施設での状況がより分かるようグラフや写真を使用し書面（視覚）から情報が分かるように工夫をしている。意見等があった際には業務などに反映出来る様に努めている。	2か月に1回対面で実施を行っている。見やすく、施設での状況がより分かるようグラフや写真を使用し書面（視覚）から情報が分かるように工夫をしている。意見等があった際には業務などに反映出来る様に努めている。	運営推進会議のメンバーは、市長寿社会課職員・町内公民館長・他事業所の施設長・家族・入居者・職員で構成している。議事録は、内容をわかりやすくまとめ、質疑応答の内容を具体的に記載することで欠席者が読んでも会議内容が理解できるよう作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員に市役所の方に入ってもらい、可能であれば会議にも参加して頂いている。また報告書を書面ではありますが、事業所の実情を報告しております。	運営推進会議の委員に市役所の方に入ってもらい、可能であれば会議にも参加して頂いている。また報告書を書面ではありますが、事業所の実情を報告しております。	運営推進会議メンバーである市長寿社会課職員を中心に、運営に関する相談や不明点について問い合わせを行い、行政の視点からのアドバイスや情報提供を受けより適切な運営に繋げている。地域包括支援センターとは、入居者紹介に関する問い合わせ等、必要な情報収集や助言を得ている。社会福祉協議会とは、地域福祉に関する情報交換や連携・協力を進めるなど地域に根差した運営を目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法人、事業所とも行わないと運営方針の元支援を行っている。法人内の身体拘束委員会を中心に身体拘束に関する研修なども定期的に行っている。	身体拘束は法人、事業所とも行わないと運営方針の元支援を行っている。法人内の身体拘束委員会を中心に身体拘束に関する研修なども定期的に行っている。	法人内に身体拘束適正化委員会を設置し、毎月第2木曜日に会議を開催している。委員会には、各事業所から2名の委員が出席し、身体拘束に関する事例検討や情報共有を行っている。年2回以上、動画を使用した研修やグループホーム連絡協議会の研修案内による外部研修を実施している。職員は、身体拘束や虐待についての理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて委員会を設置しています。虐待防止の研修についても年1回以上の内部研修が設けられており、事業所の委員担当が事業所会議にて周知・勉強会を行い、防止に努めています。	法人内の委員会での研修への参加又は動画視聴を行いが虐待防止の意識付けを行っている。また、ユニット会議の際等にケアの方法等についても検討を行い職員一同で適切なケアが提供出来る様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の包括センターと連携し後見人制度を利用し支援させて頂いたことがあります。現在、関係する方から相談・要請はありませんが、これらの事業等が必要な方がおられるときには支援を考えております。	地域の包括センターと連携し後見人制度を利用し支援させて頂いたことがあります。現在、関係する方から相談・要請はありませんが、これらの事業等が必要な方がおられるときには支援を考えております。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはしっかりと説明を行いご利用者及びご家族の不安の軽減がで切るいい様に努めている。また、写真等を掲載した施設の紹介等も用いて説明を行っている。	契約の際にはしっかりと説明を行いご利用者及びご家族の不安の軽減がで切るいい様に努めている。また、写真等を掲載した施設の紹介等も用いて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が苦情受付担当者になっており、苦情が出た際には、運営に反映させる体制をとっています。	職員全員が苦情相談窓口となっており面会の際等に話を伺うようにしている。また半年に1回程度利用者家族との面談を行い要望等を伺いケアに反映している。	家族の面会時や電話連絡時に、職員が聞き取った意見や要望等をパソコンに入力され、他の職員が閲覧できるようになっている。担当職員制と情報共有システムを活用し、入居者に関する様々な情報を収集し職員間で共有している。入居者本人や家族の意向は、必要に応じて介護計画に反映され、日々のケアに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見については何でも言える施設の雰囲気作りを行い常時聞くようにしている。1年に1回は各ユニットでの面談を行い職員の要望などの聞き取りを行う様にしている。	職員の意見については何でも言える施設の雰囲気作りを行い常時聞くようにしている。1年に1回は各ユニットでの面談を行い職員の要望などの聞き取りを行う様にしている。	月に1回、ユニット会議を開催し、職員は、入居者の支援内容や運営に関する意見や提案を伝えることができる。ユニット会議以外にも、職員が日常的に管理者にいつでも意見を言える環境を整えている。個別面談の機会もあり、職員の意見や提案を積極的に収集し、運営に反映させている。これらの取り組みを通して、職員のモチベーション向上やチームワーク強化を図り、良いケア提供に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内外の勉強会や研修会への参加の自主性や、提出書類等の速やかさ等を基本給へ反映させています。	毎年度1回程度職員にアンケートを行い意識調査を行っている。その内容をもとに面談を行い、必要な研修等への参加の検討も行っている。また、各々のスキルをもとに事業所内及びユニット内での役割りの検討を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修会を開催し同業者との交流を行っており、サービスの質や職員のスキルの向上に繋がっていると思います。	研修等は出来るだけ参加を促している。特に認知症介護実践者研修等に関しては向上心のある職員は出来るだけ受講できる環境作りを行っている。新人職員に関しても1ヶ月程度の計画を立て、他の職員とも共有し指導育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの地区の協議会の研修等で同業者との交流を行っている。研修などの際にも参加した際には交流を行っている。	グループホームの地区の協議会の研修等で同業者との交流を行っている。研修などの際にも参加した際には交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にアセスメントを行い本人様の重い等は本人様からの聞き取りを行っている。またサービスの導入期では職員間での共有を密に行い本人様との関係作りに努めている。	入所時にアセスメントを行い本人様の重い等は本人様からの聞き取りを行っている。またサービスの導入期では職員間での共有を密に行い本人様との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族とも面談を行い家族の思いの聞き取りを行っている。初期段階でどのような支援を行っていくかやご家族の思いについてどのように支援を行っていくかの方針の説明を行っている。	入所時に家族とも面談を行い家族の思いの聞き取りを行っている。初期段階でどのような支援を行っていくかやご家族の思いについてどのように支援を行っていくかの方針の説明を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と相談をし今必要なサービスについて説明を行っている。必要であればアドバイスも行っている。	本人やご家族と相談をし今必要なサービスについて説明を行っている。必要であればアドバイスも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者での出来る事に関しては出来る限りお声掛けを行いながら活動を行って頂いている。利用者本人が主体的に活動できるように注意をし支援を行っている。	利用者での出来る事に関しては出来る限りお声掛けを行いながら活動を行って頂いている。利用者本人が主体的に活動できるように注意をし支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議などに参加して頂いており、面会時、特に遠方の方が面会に来られた際は、十分な時間をとり面談を行い関係性の構築を行っています。また、必要時にはご家族への受診の依頼や、ご家族の要望などに出来る限り応じ対応し関係作りに努めています。	面会時等に家族との話しをしている。また面会等も出来る限り1ヶ月に1回は来て頂き共に利用者を支える事が出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等より面会・電話の希望があった際は、入居者様やご家族様に確認を行い可能な限り支援させて頂いております。	知人等より面会・電話の希望があった際は、入居者様やご家族様に確認を行い可能な限り支援させて頂いております。	入居時には、生活歴等のアセスメントを行い、フェイスシートに生活歴を記載することで、入居者の背景を把握している。入居者が以前から楽しみにしていた「早岐茶市」やその界隈を巡るなど、馴染みの場との関係が継続できるよう支援を行っている。家族から冠婚葬祭出席の依頼があれば、送迎の支援など、ホームでできる範囲の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は、日々の生活やレクリエーション参加を促し交流が出来るよう努めています。中には、入居者様間で交流が難しい場合は席替えを行ったり職員が間に入る等の支援を行っております。	月の行事やレクリエーション等を行い利用者間の親睦をはかっている。日常生活においても家事活動等一緒に行える事に関しては利用者同士で行って頂くように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も利用者の家族や退去先事業所等に連絡を入れフォローを行っている。また相談等があった際にも対応するようにしている。	退去後も利用者の家族や退去先事業所等に連絡を入れフォローを行っている。また相談等があった際にも対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でアセスメントを行い気付きに関してはユニット会議等で意見交換を行い利用者一人一人の生活が充実するようにしている。	日常生活の中でアセスメントを行い気付きに関してはユニット会議等で意見交換を行い利用者一人一人の生活が充実するようにしている。	入居者の日々の生活の中で発する言葉やしぐさから、その人の思いやニーズを汲み取るよう努めている。知り得た新たな入居者の情報は、記録に残し職員間で共有している。月末には、記録された情報を基にモニタリングを実施し、入居者の状況を把握している。本人や家族からの聞き取り内容を踏まえ、担当職員を中心に話し合いを行い、入居者本位の生活が継続できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には家族や関係していた事業所等からの情報を事前に伺い、本人様のケアの参考にしている。生活環境等も事前に聞き取り必要であれば現地確認を行い環境の変化に早く馴染んで頂くようにしている。	入所前には家族や関係していた事業所等からの情報を事前に伺い、本人様のケアの参考にしている。生活環境等も事前に聞き取り必要であれば現地確認を行い環境の変化に早く馴染んで頂くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や日々のケアプランのチェックを行い現状の把握及び職員間の情報共有を行っている。また申し送りやラインワークス等を活用に早期の情報共有が出来る様にしている。	日々の記録や日々のケアプランのチェックを行い現状の把握及び職員間の情報共有を行っている。また申し送りやラインワークス等を活用に早期の情報共有が出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で入居者様やご家族の希望、意見を伺い、介護計画を作成しています。計画作成担当者を中心に、可能な限り意向を踏まえた現状に即した介護計画を作成できるよう務めている。	日々利用者の状態の観察を行い変化があった場合はライフチャートや記録での伝達を行っている。その内容を踏まえユニット会議や必要時は臨時のミーティングなどを行い介護計画に反映させている。また面会等での家族の意向についても聞き取り反映するように努めている。	介護計画作成前に家族への聞き取りを行い、本人や家族の意向に沿った支援の実施に繋げている。聞き取り内容は、介護計画に反映され、より個別性の高いケアの提供に努めている。毎月、入居者の担当職員が介護計画のサービス内容に沿った支援が行われているかモニタリングを実施し、サービス実施状況を確認している。必要に応じて、介護計画の見直しや修正を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアプランチェックと毎月計画作成者によるモニタリングを行っている。日々の記録も重要項目に関しては申し送りを行っている。ケアプラン会議も定期的実施し職員間の情報共有を行っている。	毎日のケアプランチェックと毎月計画作成者によるモニタリングを行っている。日々の記録も重要項目に関しては申し送りを行っている。ケアプラン会議も定期的実施し職員間の情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等あれば制度内での対応が可能な範囲での対応は行っている。また必要によっては他のサービスとの連携もお行っている。	要望等あれば制度内での対応が可能な範囲での対応は行っている。また必要によっては他のサービスとの連携もお行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源に関しては現在把握している資源もあるが、これからも継続して社会資源の開拓を行い、利用者の生活が充実するように連携を行っていく様に努めている。	社会資源に関しては現在把握している資源もあるが、これからも継続して社会資源の開拓を行い、利用者の生活が充実するように連携を行っていく様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に関しては入所時に本人様ご家族の意向を伺い決定を行っている。事業所がお願いしている。主治医に関しては2週間に1回の往診にて状態の確認を行い必要時は受診を行っている。その他の主治医に関しても定期的な受診支援を行っている。歯科に関しても必要な方は往診を行い口腔衛生の維持も行っている。	主治医に関しては入所時に本人様ご家族の意向を伺い決定を行っている。事業所がお願いしている。主治医に関しては2週間に1回の往診にて状態の確認を行い必要時は受診を行っている。その他の主治医に関しても定期的な受診支援を行っている。歯科に関しても必要な方は往診を行い口腔衛生の維持も行っている。	入居時に、以前からのかかりつけ医の継続やホームの協力医について説明し、入居者や家族の希望に沿った受診支援について話し合っている。2週間に1回、ホームの協力医が訪問診療を行っている。状況によっては、協力医からの紹介状で他の医療機関を受診するなど、柔軟な受診支援を行っている。受診結果や医師からの指示は、職員間で共有し、日々のケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職は配置されていない。関係医療機関の看護師や法人内の他事業所の看護師等に相談をしている。	事業所に看護職は配置されていない。関係医療機関の看護師や法人内の他事業所の看護師等に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には早急に情報提供を行い連絡先責任者を伝えやり取りを行っている。入院後1週間後に連絡をとり状況の確認を行い相談員等と今後の支援方針について早い段階で検討を行い家族に状況の伝達を行う様にしている。	入院時には早急に情報提供を行い連絡先責任者を伝えやり取りを行っている。入院後1週間後に連絡をとり状況の確認を行い相談員等と今後の支援方針について早い段階で検討を行い家族に状況の伝達を行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では看取りを行っていない。それに近い段階になった時点で主治医及び家族と相談を行い、今後の方針について説明を行う様になっている。	当事業所では看取りを行っていない。それに近い段階になった時点で主治医及び家族と相談を行い、今後の方針について説明を行う様になっている。	医療体制や人員配置等を踏まえ、ホームでは看取り支援は行わないことを入居時に説明している。食事による経口栄養摂取が困難になったり、バイタルが不安定となった場合には、家族に状態説明と話し合いの場を設けている。主治医に相談し、他の施設への移設や入院など、可能な選択肢について説明し、家族の意向を尊重しながら可能な限りの支援を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えたマニュアルを作成しており、必要に応じた対応を行う様職員には周知しています。訓練については、日々の勤務を通して随時対応の助言・指導を行っている。	緊急時に備えたマニュアルを作成している。また定期的にAEDの使用説明会等を行い緊急時に備えている。ユニット会議の中でもヒヤリハットの対応検討やKYTトレーニング等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	自然災害、火災等の対応マニュアルを作成し、防火管理者・非常災害委員を中心に避難訓練も定期的に行っています。地震等に関しても机上訓練を行い意識の向上を行っている。運営推進会議で避難訓練の様子を見学して頂き地域との連携を行うようにしている。毎日の防災点検も実施している。	自然災害、火災等の対応マニュアルを作成し、防火管理者・非常災害委員を中心に避難訓練も定期的に行っています。地震等に関しても机上訓練を行い意識の向上を行っている。運営推進会議で避難訓練の様子を見学して頂き地域との連携を行うようにしている。毎日の防災点検も実施している。	年2回、昼間想定と夜間想定の実施し、運営推進会議に合わせて、メンバーに見学を依頼した訓練も実施している。BCPを作成し、計画に沿った机上訓練を行うなど、職員が日頃から災害について常に意識を持って業務に取り組めるよう努めている。入居者の安全確保を最優先に考え、災害発生時においても適切な対応ができるよう取り組まれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個々に応じた人格・背景を考慮し、言葉かけに注意を払いながら支援を行っている。	本人様のプライバシーには十分に注意を行っている。また気になる言葉かけや対応があった際には職員全体の問題として全体に情報共有を行い意識づけを行っている。	職員同士が、入居者への言葉かけが不適切ではないか常に意識し、気づいた場合は互いに注意し合う関係性を築いている。不適切な対応事例があった場合には、全体で共有し、検討する機会を設け、事例検討を通して、全職員がプライバシーを尊重した適切な対応ができるよう意識を高めている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でのコミュニケーションの充実を図りその中で本人の思いを汲み取り日常生活で反映出来る様に努めている。	日常生活でのコミュニケーションの充実を図りその中で本人の思いを汲み取り日常生活で反映出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者様に応じて日々の状況・状態を把握したうえで、可能な限り支援を行っている。	職員の動きに合わせるのではなく利用者の状況に合わせて支援を行っていくように職員の意識づけを行っている。出来る限り柔軟に日々対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿った衣類等の選択に努めている。また行事等の際には化粧をしたり、おしゃれな服を着るなどして支援を行っている。	本人の意向に沿った衣類等の選択に努めている。また行事等の際には化粧をしたり、おしゃれな服を着るなどして支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事前にアセスメントにて趣向・アレルギー調査を行っており、個々の入居者様に応じた食事の提供を行っております。また、食後は食器洗い・拭きを入居者様と一緒に支援を行っています。	利用者の食事の状態を定期的に担当でアセスメントを行っている。皿洗い等が出来る方には行ってもらっている。また家族の協力を得て本人の好きなふりかけ等を持参して頂き提供を行っている	食材は宅配業者に依頼することで、新鮮な食材を安定的に確保している。ホームで炊飯を行うことで、温かいご飯を提供している。誕生日には手作りのシチュー、節分には恵方巻を提供するなど、イベントに合わせたメニューを提供している。入居者が材料の下ごしらえを担当することで、役割を持った食事作りの機会を設けている。出来上がった料理を、入居者と職員が一緒に楽しみながら食べることができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量の記録を行っている。水分量に関しては時間関係なく水分提供を行ったり水分ゼリーの提供等を行い水分摂取を確保できるようにしている。摂取量が少なくなった時等は家族等に相談をして好きな食べ物を持って来て頂いたり、主治医に相談をして補助食品の提供を行ったりしている。	日々の摂取量の記録を行っている。水分量に関しては時間関係なく水分提供を行ったり水分ゼリーの提供等を行い水分摂取を確保できるようにしている。摂取量が少なくなった時等は家族等に相談をして好きな食べ物を持って来て頂いたり、主治医に相談をして補助食品の提供を行ったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、また必要な方に関しては歯科往診を行い口腔衛生を行っている。	毎食後の口腔ケアを行い、また必要な方に関しては歯科往診を行い口腔衛生を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を行っている。定期的なトイレへの声掛けを行いトイレ誘導を行っている。	出来る限りトイレでの排泄を行っている。定期的なトイレへの声掛けを行いトイレ誘導を行っている。	各入居者の排泄間隔を把握し、尿意の訴えがない入居者には、しぐさや表情で察知し、トイレへの誘導を行っている。排泄用品の使用について業者に相談しながら、排泄量に応じた物を使用し、使用量の軽減に努めており、経済的な負担軽減にも繋げている。少量の汚染でも交換してほしいと希望する入居者には、事情と使用量を家族に説明し、納得を得て、入居者本位の排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のメカニズムの理解を行い、運動や水分量の確保を行っている。必要時は主治医の指示で排便コントロールも実施している。	便秘のメカニズムの理解を行い、運動や水分量の確保を行っている。必要時は主治医の指示で排便コントロールも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置状況等で曜日や時間に関しては対応できない部分もあるが、その範囲内で対応出来る事に関しては対応している。(熱いお湯や入浴時間等)。またリフト浴がある為出来る限り全利用者に湯船に使うて頂けるように努めている。	職員の配置状況等で曜日や時間に関しては対応できない部分もあるが、その範囲内で対応出来る事に関しては対応している。(熱いお湯や入浴時間等)。またリフト浴がある為出来る限り全利用者に湯船に使うて頂けるように努めている。	入居者一人あたり週2回の入浴を実施している。浴槽にリフト浴の設備があり、シャワー浴だけでなく、入居者全員が浴槽へ入ることができる。リフト浴の導入により、身体的な負担を軽減し、安全に入浴を楽しめる環境を提供している。入居者の順番の拘りや好みの湯温などを把握し、各入居者の希望に応じた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室環境の整備(温度湿度寝具)等の工夫を行い利用者が安心して休息出来る様にしている。	自室環境の整備(温度湿度寝具)等の工夫を行い利用者が安心して休息出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関しては内服確認表で確認をしている。処方の変更があった時等も速やかに情報共有を行っている。利用者の状況に合わせて粉碎等の対応も薬局にお願いしている。	内服に関しては内服確認表で確認をしている。処方の変更があった時等も速やかに情報共有を行っている。利用者の状況に合わせて粉碎等の対応も薬局にお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣向に応じたおやつ提供や個別での外出、ドライブ外出等を行う等の支援を行なっています。	外出がなかなか職員の配置などの状況で難しい為、行事の中で利用者の方が望まれる食事を一緒に作って提供する等を行っている。また季節ごとの行事の準備等も利用者の方が出来る範囲で一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族からの要望があった時には外出等の支援も行っている。その際には利用者の状況も踏まえ車椅子の貸し出しなど必要な支援を行っている。	ご家族からの要望があった時には外出等の支援も行っている。その際には利用者の状況も踏まえ車椅子の貸し出しなど必要な支援を行っている。	入居者の身体状況に応じて、買い物同行支援を行っている。天気の良い日には、ホーム下の駐車場まで散歩したり、外気に触れ気分転換を図る取り組みを行っている。これから外出しやすい気候になったら、花見等に出かける計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭を持っていませんが、少額を預かり金庫に保管し必要時はそこから使用して頂いている。	利用者は金銭を持っていませんが、少額を預かり金庫に保管し必要時はそこから使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙でのやり取りに制限は設けていませんが、知人については入居者様・ご家族様確認の上、支援させて頂いております。	ご家族からの電話や手紙でのやり取りに制限は設けていませんが、知人については入居者様・ご家族様確認の上、支援させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、不必要な物を置かないよう配慮しております。また、季節感を感じて頂く為に、季節を感じて頂けるような掲示物・関連ある物を配置して四季を感じる事が出来るよう支援させて頂いております。	共有の空間については、不必要な物を置かないよう配慮しております。また、季節感を感じて頂く為に、季節を感じて頂けるような掲示物・関連ある物を配置して四季を感じる事が出来るよう支援させて頂いております。	季節にちなんだ壁紙や、入居者と職員が共に作成した置き物などを飾ることで、共有空間を明るく温かい雰囲気にする工夫をしている。壁のカレンダーに過ぎた日に×印を入れることで、入居者が日付を理解できるよう工夫している。調理や清掃を担当する職員が各ユニットの全体の掃除を行い、入居者の居心地の良い環境作りに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:)	実践状況(ユニット名:)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をし ている	共有空間でも、一人一人の場所が確 保されています。思い思いに過ごし て頂ける様支援させて頂いております。	共有空間でも、一人一人の場所が確 保されています。思い思いに過ごし て頂ける様支援させて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	入居時にて自宅で使用された思い入 れのある家財道具を持って来て頂い ており、居室に過ごす際は親しみを 感じながら心地よく過ごせるよう支 援させて頂いております。	入居時にて自宅で使用された思い入 れのある家財道具を持って来て頂い ており、居室に過ごす際は親しみを 感じながら心地よく過ごせるよう支 援させて頂いております。	寝具や家具など、在宅時から使い慣 れたものを持ち込むことを入居時に説 明し、可能な限り持ち込みを促すこと で、入居者が落ち着いた生活を送れる よう配慮している。各居室は、家族 の写真を飾ったり、テレビを設置す るなど、入居者それぞれの思いおも いの空間作りを尊重している。在宅 生活の延長として生活の継続がで きるよう居室作りをサポートして いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安全 かつできるだけ自立した生活が送 れるように工夫している	共有のトイレについては、トイレと 分かる様張り紙をしており、入居 者様の自立度に応じて支援させて頂 いております。	共有のトイレについては、トイレと 分かる様張り紙をしており、入居 者様の自立度に応じて支援させて頂 いております。		